― 追悼 中曽根忠夫さん ―

「定年後の素敵な生き方を紹介して」と言われたら、ためらわず中曽根さんを紹介するでしょう。その中曽根さんのことを知っていただきたくて、ご本人が最後にかつてお仕事でお世話になった方にあてて書かれた手紙と、先にえんの職員になっておられたお連れ合いの幸子さんの文章を載せることにしました。

体調が悪化した１１月中もいつも通りに庭仕事にみえていましたのに、１２月２日に「お願いがあります」と、ご挨拶に見えました。「あと１０日から１カ月の命と告知されました。小島さん、ぼくの葬儀で弔辞を読んでください」。それから４週間足らずの１２月２９日に亡くなられました。享年77歳。

この春も、彼が整えてくれたえんの庭は花々が咲きそろい、コロナ騒動でザワザワする気持ちを和ましてくれています。「中曽根さん、何があっても前を向いて歩いて行きますからね」と、花々の向こうにいる彼に話かけています。

小島美里

最後の手紙

お懐かしいＳ先生へ

Ｓ先生、懐かしい。こうしてお手紙を書くことになるとは信じられません。先生に教えてもらって、一日一日が楽しくて胸が一杯でした。時代の流れもあって、元のサラリーマンになりましたが、何の後悔もありませんでした。大事な家族と家が残りましたから。

60 才定年に合唱団に入って、楽譜が読めるよう勉強したんですよ。そしてヘルパーの資格をとって職につき、楽しく 15 年間働きました。その間、腹話術を学び、お人形も自分で作って腹話術師として、あっちの施設こっちの幼稚園、小学校、老人会と、その数 300 回を越えました。マジックやバルーンアート、紙切りとその種類を増やしていき、もうやることはやりました。

今ベッドの上のテーブルで書いていますが（Ａ病院）、もう私の人生に満足してます。ありがたいことです。

・最近の先生の作品、迫力ありますね。特にパラオ・シリア・アラブ・フィジーの作品はみごと、喜ばれたでしょう。

・年はとっても頭は冴えてるんですね。M子ちゃんはしっかり育ってるし…。

少し疲れてきたので筆をおきます。世間は 100 才時代、益々のご活躍をお祈り致します。

２０１９．１２．１０記　　中曽根忠夫